

# 「サステナビリティ ビジョン2050」を策定

積水ハウスグループは2008年に、住まいからのCO<sub>2</sub>排出ゼロを目指す「2050年ビジョン」を宣言し、「脱炭素」経営にいち早くかじを切りました。社会システムの変化や技術革新のスピードが加速する中で、将来のさらなる環境変化に備え、より広範な事業領域において時間軸を意識した取り組みの方向性を示すことにしました。お客様、従業員、長期投資家、サプライヤーなど、当社グループの長期的な価値実現に関心を持つステークホルダーと共有するために、2050年に向けた新たな長期ビジョンを策定しました。

## 長期ビジョン策定の背景・目的

20世紀の社会は、大量の資源利用に支えられた物の大量生産・消費によって、生活の不足・不自由・不便を解消することで、幸せの実現を図ってきました。このシステムは、暮らしのボトムアップには奏功したものの、化石エネルギーの大量消費に起因する地球温暖化等の環境問題を生み出し、同時にそのプロセスを通じ、社会的にもさまざまなひずみを生じさせることとなりました。

しかし今、物が飽和する中、人々の関心は物質的豊かさを超えた、より深い暮らしの質の追求に移りつつあります。このため企業に求められる役割は、単なる量の提供者から、持続可能な質の創造者へと変化しています。

当社グループはこうした認識のもと、2005年に「持続可能性」を経営の基軸に据える「サステナブル宣言」で事業の方向性を示し、一貫して「住」を通じた社会課題解決の可能性を提唱してきました。そして、2013年には「CSV(共有価値の創造)」を企業姿勢として正面から打ち出し、取り組みを重ねてきました。

SDGs<sup>※</sup>等の世界的な潮流を踏まえつつ、社会課題解決に向けて蓄積してきた事業活動の影響力をさらに発揮し、価値を創造することで新しい社会へと導くための長期ビジョンを示します。

※ SDGs: 持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)  
2015年9月、国連総会で採択された、社会・経済・環境面における「持続可能な開発」を目指す、先進国も途上国も含めた国際社会共通の目標。

## 2050年のチャレンジ目標

### 住まいのライフサイクルにおける CO<sub>2</sub>ゼロ

リーディングカンパニーとして、住宅という製品について、材料購入から生産、販売、居住、解体までのライフサイクル全体において、再生可能エネルギーの利用も含めて、CO<sub>2</sub>排出量をゼロにします。

### 事業を通じた

## 生態系ネットワークの最大化

生態系の破壊につながる森林破壊をゼロにする(Zero Deforestation)ために「フェアウッド」調達100%を実現します。また、住宅建築、まちづくりにおける緑化を通じて、生態系保全、防災・減災、快適性等、自然が持つグリーンインフラ機能を賢く利用する都市緑化貢献度日本一の企業を目指します。

### 住まいのライフサイクルにおける ゼロエミッションの深化

住宅を良質な資産として育てるため、住まい方や社会変化に対応する適切なリフォーム・リノベーションを当社グループで提供。これらの過程で発生する廃棄物について、業界に先駆けて達成したゼロエミッションを深化させ、業界連携による社会インフラレベルでのゼロエミッションを実現します。

### 住まいとコミュニティの 豊かさを最大化

安全・安心・快適、最新技術の享受、健康、長寿、幸福感、家族との絆など、生活にとってポジティブな要素を「豊かさ」と位置付け、さまざまな角度からその可能性を追求します。「豊かさ」の最大化をミッションとして、新技術の開発、オープンイノベーションなどに挑み続けます。

# 環境・社会の価値を創造し、 持続可能な社会へ先導

## 目指す姿

### 脱炭素社会へ先導

地球温暖化による気候変動は私たちの暮らしに目に見える影響を与えています。化石燃料への依存を続けることなく、エネルギー問題に制約されず、質の高い安全な暮らしが可能な社会を実現します。



### 人と自然の共生社会へ先導

豊かな自然のネットワークは、生物多様性の保全に寄与し、気候変動を緩和させるなど、私たちの暮らしを支える生態系サービスを守るだけでなく、人々の生活の質を改善し、つながりを強めることに貢献します。このネットワーク機能を最大化し、人と自然の共生社会を実現します。



### 資源循環型社会へ先導

世界人口の増加に伴い、資源やエネルギーの需要が高まる中、すべての人が安定した暮らしを送るため、技術や経済システムの革新によって、天然資源だけに依存しない、リサイクル資源を持続的に活用する循環型社会を実現します。



### 長寿先進・ダイバーシティ社会へ先導

高齢者が健康で誇り高く活躍する社会（長寿先進社会）、そして、多世代・多国籍・多様な価値観を持った人々が互いに好影響を發揮し合いながら持続可能なイノベーションを実現していく社会（ダイバーシティ社会）の形成を目指します。



# 「CSV 戦略」を推進

積水ハウスグループでは、住宅は社会課題の中心に位置するととらえ、持続可能な社会を実現するための重点テーマとして「CSV 戦略」を設定しています。GRI ガイドライン(G4)の特定標準開示項目から選定した19のマテリアルな側面を中期経営計画に沿って、六つの「CSV 戦略」として具体的な活動レベルに束ねています。

## 価値創造の重点テーマ「CSV 戦略」

|   |   | 関係する 2050年のチャレンジ目標                |
|---|---|-----------------------------------|
| 1 | <b>住宅のネット・ゼロ・エネルギー化</b><br>エネルギー問題に制約されない質の高い暮らしを実現し、環境配慮とお客様の健康寿命の伸長に貢献する          | 住まいのライフサイクルにおけるCO <sub>2</sub> ゼロ |
| 2 | <b>生物多様性の保全</b><br>事業の影響力を考慮し、持続可能な自然資本の利用によって生態系ネットワークを守る                          | 事業を通じた生態系ネットワークの最大化               |
| 3 | <b>技術開発・生産・施工品質の維持・向上</b><br>「最高の品質と技術」により、お客様の最大の満足を実現                             | 住まいとコミュニティの豊かさを最大化                |
| 4 | <b>アフターサポートの充実による住宅の長寿命化</b><br>グループ各社の連携によって、お客様の暮らしを長期にわたりサポート。住まいの価値向上と資源循環につなげる | 住まいのライフサイクルにおけるゼロエミッションの深化        |
| 5 | <b>ダイバーシティの推進と人材育成</b><br>多様な人材の可能性を引き出し、互いを尊重しながら高付加価値を生み出す「サステナブルな企業集団」を目指す       | 住まいとコミュニティの豊かさを最大化                |
| 6 | <b>海外への事業展開</b><br>住宅の枠を超え、環境技術とサステナブルな住環境の創造で、世界の安全・安心・快適な暮らしと地球環境保全に貢献する          | 住まいとコミュニティの豊かさを最大化                |

## 「CSV 戦略」と G4のマテリアルな側面

| CSV 戦略                  | 特定した G4のマテリアルな側面との相関   |
|-------------------------|--|
| 1 住宅のネット・ゼロ・エネルギー化      | ● 環境: エネルギー ● 環境: 大気への排出 ● 環境: 製品およびサービス   |
| 2 生物多様性の保全              | ● 環境: 生物多様性 ● 環境: サプライヤーの環境評価 ● 経済: 調達慣行   |
| 3 技術開発・生産・施工品質の維持・向上    | ● 製品責任: 顧客の安全衛生 ● 製品責任: コンプライアンス<br>● 労働慣行: 労働安全衛生   |
| 4 アフターサポートの充実による住宅の長寿命化 | ● 環境: 排水および廃棄物 ● 環境: 製品およびサービス ● 製品責任: 顧客の安全衛生<br>● 製品責任: コンプライアンス ● 製品責任: 製品およびサービスのラベリング |
| 5 ダイバーシティの推進と人材育成       | ● 労働慣行: 多様性と機会均等 ● 労働慣行: 労働安全衛生<br>● 労働慣行: 研修および教育 ● 労働慣行: 雇用 ● 人権: 投資                     |
| 6 海外への事業展開              | ● 環境: エネルギー ● 環境: 生物多様性 ● 製品責任: 顧客の安全衛生  |

# 第4次中期経営計画(2017-2019年度)

積水ハウスグループは、2020年1月期を最終年度とする中期経営計画を策定しました。

本計画では、IoT・AIに代表されるIT技術の飛躍的な進化、地球温暖化や高齢化に対応するために求められる住宅需要の変化、インバウンド需要の拡大や東京オリンピック開催など、2020年以降、日本の経済情勢とともに事業環境が大きく変化すると考え、基本方針を「BEYOND2020に向けた『住』関連ビジネスの基盤づくり」としました。

住宅関連ビジネスの強化はもとより、当社の工場出荷部材を生かした新たな事業領域の拡大、

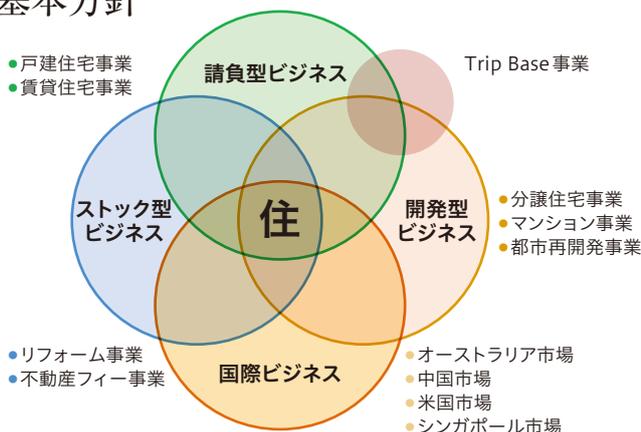
そして、2009年から取り組んできた国際事業を大きな柱の一つと位置付け、

付加価値の高い住宅・住環境の普及を積極的に推進していきます。

※ 第4次中期経営計画 [http://www.sekisuihouse.co.jp/company/financial/library/info/data/\\_icsFiles/afiedfile/2017/03/09/p20170310.pdf](http://www.sekisuihouse.co.jp/company/financial/library/info/data/_icsFiles/afiedfile/2017/03/09/p20170310.pdf)

## BEYOND2020に向けた「住」関連ビジネスの基盤づくり

### 基本方針



### 「住」に特化した成長戦略の展開から事業創出へ

|                  |   |
|------------------|---|
| <b>請負型ビジネス</b>   | 高付加価値型の住宅を供給することにより安定成長を図るとともに、良質なストックの形成に努める。  |
| <b>ストック型ビジネス</b> | 請負型ビジネスで形成した良質なストックの資産価値向上を目的としたビジネスを展開する。      |
| <b>開発型ビジネス</b>   | 環境創造型の開発により、良質なまちづくりを図るとともに、資産回転率の向上により安定成長を図る。 |

### 「請負・ストック・開発」に続く4本目の柱へ

|               |   |
|---------------|---|
| <b>国際ビジネス</b> | 国内で培った環境技術を基盤に、Sekisuihouse Qualityをグローバル展開させる。 |
|---------------|---|

### 事業推進方針

#### コア・コンピタンス

|             |  |   |
|-------------|--|---|
| <b>技術力</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>SLOW &amp; SMART (環境技術、シーカス、エアキス、スマートユニバーサルデザイン、オリジナル外壁など)</li> <li>3・4階建て商品</li> <li>チーフアーキテクト、一級建築士</li> </ul>                    | × |
| <b>顧客基盤</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>世界No.1の累積建築戸数と、アフターサービス体制</li> <li>カスタマーズセンター、積和不動産による長期にわたるリレーションシップ</li> <li>多様な顧客接点(展示場、住まいの夢工場、住まいの参観日、シャーマゾンフェスタなど)</li> </ul> | × |
| <b>施工力</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>積和建設による責任施工体制</li> <li>積水ハウス会によるロイヤルティの高い施工協力体制</li> </ul>  | × |

| 新技術         | Open Innovation |
|-------------|-----------------|
| IoT         | 産学連携            |
| AI          | 共同開発            |
| Robot       | アライアンス (業務提携)   |
| Block chain | ビジネス            |
|             | コンテスト           |
|             | ベンチャー投資         |
|             | M&A             |

2020年8月 創立60周年

ハードとソフトを融合した新たな事業展開を図る

### 収益計画

|           | 2016年度 | 2017年度(計画) | 2018年度(計画)  | 2019年度(計画) |
|-----------|--------|------------|-------------|------------|
| 売上高 (億円)  | 20,269 | 21,440     | 22,000      | 23,830     |
| 営業利益 (億円) | 1,841  | 1,920      | 2,000       | 2,300      |
| 営業利益率     | 9.1%   | 9.0%       | 9.1%        | 9.7%       |
| ROE       | 11.3%  | 11.3%      | 10%台を安定的に創出 |            |

# 中期経営計画と「CSV 戦略」

持続可能性を基軸に据えた CSV 戦略は、  
 経営方針・経営計画の方向性と合致することにより有効に機能します。  
 中期経営計画に盛り込まれた「事業戦略」と「持続的成長を目指した ESG への取り組み」における  
 CSV 戦略の位置付けを下記に示します。

## 第4次中期経営計画(2017~2019年度)の事業戦略と CSV 戦略

1~6 = CSV 戦略との対応

| 事業戦略 |               | 請負型<br>ビジネス   | ストック型<br>ビジネス  | 開発型<br>ビジネス  | 国際<br>ビジネス |
|------|---------------|---|--|--|------------|
| 成長戦略 | 基本方針          | 1,2<br>高付加価値<br>住宅の供給   | 4<br>グループ連携<br>の強化   | 1,2,6<br>将来にわたる資産価値の形成   |            |
|      | 重点課題          | 損益分岐点管理に<br><ul style="list-style-type: none"> <li>● ZEH</li> <li>● 3・4階建て住宅</li> <li>● 収益物件賃貸住宅</li> <li>● エクステリア事業</li> <li>● Trip Base 事業</li> <li>● CRE、PRE 事業</li> </ul> | よる利益率の向上<br><ul style="list-style-type: none"> <li>● 高入居率の確保</li> <li>● 省エネルギーフォーム</li> <li>● リノベーション</li> <li>● スムストック</li> <li>● 既存住宅流通</li> </ul> | 成長投資と回転率の向上<br><ul style="list-style-type: none"> <li>● 戸建分譲地の取得</li> <li>● まちなみ重視の<br/>開発</li> <li>● Trip Base 事業</li> <li>● 出口戦略の強化</li> </ul> |            |
| 経営基盤 | コア・<br>コンピタンス | 1,3<br>技術力  | 4<br>顧客基盤  | 施工力  |            |

## 持続的成長を目指した ESG への取り組み

**1,2 環境経営 E**

- Dow Jones Sustainability World Index (DJSI World) に選定
- ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス「グリーンファースト ゼロ」の推進が「平成 28 年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」「第 26 回地球環境大賞 経済産業大臣賞」を受賞
- 日本経済新聞社「第 20 回環境経営度調査」において全指標最高評価で建設業首位を獲得

**5 社会性向上 S**

〈働き方改革〉  
 「わくわく、ドキドキする職場」づくり

- 公正な評価と見える化
- IT による業務の効率化
- 「ライフワークバランス」の実現 → 生産性向上

〈ダイバーシティの推進〉

- 女性活躍推進
- 仕事と育児の両立支援
- 仕事と介護の両立支援
- 障がい者が働きやすい職場づくり

**ガバナンス G**

コーポレートガバナンスを経営の重要課題として位置付け、経営の透明性を確保し、適時・適切なチェック機能と監視機能が発揮できるよう、取締役会に 2 人の社外取締役、監査役会に 3 人の社外監査役を配置。また、執行役員制を導入しており、経営責任の明確化と業務執行の迅速化を図る。

2016 年には「コーポレートガバナンス基本方針」を制定。さらなるガバナンス強化に努める。